

「超極薄」が好調

# 織る原点

「最近、丸井さんがいいらしい」。同業者のうわさ話には、信ぴょう性が疑われるようなものもあったりするが、今回はどうやら当たりのようだ。はじんばかりの笑顔で「そう、今年は多分元に戻るよ」。アウトドア衣料を中心、「超極薄」がもてはやされ、売り上げが増えた途端、3年前に東日本大震災に見舞われた。円高の影

声では言えないが、国内外の有名ファッショングランド、スポーツブランドで「実はこれ、うちの生地なの」という話題が尽きない。あまり人に見せちゃダメだよ。盗まれたら大変だ」。先日、ある大手織維企業トップが訪れ、所狭しと並ぶ見本の数々を見て驚きの声を上げたそうだ。

「うちは能登の機屋ですよ」と謙遜するが、ここまで



響を受け、売り上げは2割近く落ちたが、昨年春ごろから円安で輸出向けが大方戻り、今では最も得意とするスポーツ・アウトドア分野が好調という。

ただ、不安要素は残っている。国内の動きの鈍さだ。「根本的にデフレから脱却していきないでしょ。消費税増税後にどこまで脱却できるかどうかだね」。

「実はうちの生地」

薄手生地を織る技術では日本一の自負がある。取引先との関係があつて大きな

# 見失わず

で成長するには理由がある。 「時代に合わせて新しいこともどんどん仕掛けるけれど、織物を織るという原点だけは絶対に外すな、見失うな」と仕掛けのうちに、何が本業か分からなくなることが一番怖い」。本業へのこだわりこそが業績を支えてきたと思う。

だから、「織る技術しか

を通じて若手自身に気づかせ、次世代を担う人材として成長させたい」「いいじょ」のアイデア。だってまだやれることがたくさんある。伸びしろあるもん、この会社」。苦境にめげず、着々と業績を積み重ねる姿に、強風をひらりとかわす薄手生地のようなたくましさを感じた。(天日垂衣)

## 若手が新目標策定

2016年度にグループの売上高を100億円にするという目標がある。現時点で90億円を超えており、20年に向けた新しい目標を掲げるつもりだ。まさに東京五輪開催の年であり、スポーツ分野得意とする自社の出番だ。社内公募した20~30代の若手社員15人が中心となり、何ができるかを考えている。

環境の変化に対応するために変わることは当然だが、どの企業にも、変えていけない根幹が必ずあると思う。それを経営陣が教え込むのではなく、目標策定を考えている。

動車勤務後、77年丸井織物入社。専務を経て99年から現職。61歳。

みやもと・とおる 石川県中能登町(旧鹿島町)生まれ。1975年慶大工学部卒。日産自

突破口